

平成22年度全国学力・学習状況調査の結果の概要（和歌山県）

1 調査の概要

(1)調査日 平成22年4月20日（火）

(2)調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(3)調査内容

①抽出調査を実施した学校・児童生徒

公立小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年【抽出率41.4%】

公立中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年【抽出率74.8%】

	「国語A」	「国語B」	「算数A・数学A」	「算数B・数学B」
(小6)	学校・児童数 109校 3,845人	109校 3,845人	109校 3,845人	109校 3,845人
(中3)	学校・生徒数 98校 6,466人	98校 6,469人	98校 6,470人	98校 6,461人

②教科に関する調査

- ・主として「知識」に関する問題…[国語A、算数A・数学A]
- ・主として「活用」に関する問題…[国語B、算数B・数学B]

③生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)
- ・学校に対する調査
(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)

(4)抽出調査における平均正答率の取扱

各都道府県（公立）の教科に関する調査については誤差±1%となるように標本調査が行われているため、±1%程度の誤差を含めた数値の幅により、抽出調査のデータが示されている。全国及び都道府県（公立）の平均正答率についても、誤差を含めた数値の幅「平均正答率の95%信頼区間」で示されている。

2 教科に関する調査結果

(1)平均正答率の95%信頼区間における和歌山県（公立）と全国（公立）の比較小学校調査

	国語A	国語B	算数A	算数B
県	81.8 - 83.2	75.0 - 77.0	72.6 - 74.6	46.9 - 48.9
全国	83.2 - 83.5	77.7 - 78.0	74.0 - 74.4	49.1 - 49.5

○国語、算数ともに、B問題においては全国平均正答率を下回り、特に国語B問題については開きがある。

中学校調査

	国語A	国語B	数学A	数学B
県	71.8 - 73.0	61.1 - 62.7	64.0 - 65.7	41.0 - 43.2
全国	75.0 - 75.2	65.1 - 65.5	64.4 - 64.8	43.1 - 43.5

○国語については、A問題・B問題ともに全国平均正答率を下回り、開きがある。
数学については、A問題が若干全国平均正答率を上回る状況にある。

(2) 無解答率（平成20年度～平成22年度の県比較）

小学校調査

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
H.20 無解答率平均 (%)	11.4	14.4	2.4	6.0
H.21 無解答率平均 (%)	9.1	13.1	1.7	6.1
H.22 無解答率平均 (%)	2.3	4.6	2.2	6.5
無解答率差 (H.22 - H.21) (%)	- 6.8	- 8.5	0.5	0.4

中学校調査

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
H.20 無解答率平均 (%)	4.4	11.1	6.7	14.6
H.21 無解答率平均 (%)	3.8	7.8	5.7	11.4
H.22 無解答率平均 (%)	3.3	8.5	6.6	21.0
無解答率差 (H.22 - H.21) (%)	- 0.5	0.7	0.9	9.6

○小学校国語 A 問題・B 問題ともに無解答率は減少し、かなり改善が見られる。

○中学校国語 A 問題においても、若干ではあるが改善傾向にある。

○小学校算数 B 問題、中学校数学 A 問題・B 問題ともに依然無解答率は高く、課題がある。

3 質問紙調査の結果

(1) 【児童質問紙】

ア 問 2 7 「家で学校の授業の予習をしていますか」問 2 8 「家で学校の授業の復習をしていますか」については、「している」と回答した児童の割合が、約 2 ポイントから 4 ポイント全国より低くなっており、依然家庭学習に課題が見られる。

している (%)	県	全国	差
質問 2 7	12.7	15.1	-2.4
質問 2 8	15.0	19.2	-4.2

イ 問 4 9 「授業では、ノートを丁寧に書いていますか」については、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合が、昨年度よりも約 3 ポイント以上上昇している。しかし、全国よりなお 3 ポイント近く低くなっている。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」 (%)	県	全国	差
H 2 1	69.4	73.6	-4.2
H 2 2	72.8	75.5	-2.7

ウ 問 5 2 「国語の勉強は好きですか」問 5 4 「国語の授業の内容はよく分かりますか」については、「当てはまる」と回答した児童の割合が、昨年度の県平均と比べて 3 ポイントから 4 ポイント上昇している。

問 5 2 当てはまる (%)	県	全国	差
H 2 1	20.1	21.6	-1.5
H 2 2	23.1	24.2	-1.1

問 5 4 当てはまる (%)	県	全国	差
H 2 1	31.8	34.1	-2.3
H 2 2	36.0	37.0	-1.0

エ 問62「解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか」については、「最後まで解答を書こうと努力した」児童の割合が、昨年度の県平均と比べて5ポイント以上上昇している。

問62書こうとした (%)	県	全国	差
H21	65.2	67.6	-2.4
H22	70.5	72.6	-2.1

(2) 【生徒質問紙】

ア 問26「家で学校の宿題をしていますか」については、昨年度と比較して3ポイント上昇している

している (%)	県	全国	差
H21	48.8	55.6	-6.8
H22	51.8	58.1	-6.3

イ 問36「学校の規則を守っていますか」については、昨年度も課題として指摘されていたが、本年度もほぼ横ばいであり、全国と比較しても10ポイント近く低い状況である。

当てはまる (%)	県	全国	差
H21	35.9	44.5	-8.6
H22	35.5	45.1	-9.6

ウ 問57「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」については、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は全国と比較して10ポイント以上低い状況にあり、依然として課題が見られる。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」 (%)	県	全国	差
H21	32.4	41.8	-9.4
H22	34.2	45.8	-11.6

エ 問67「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は昨年度と比較して3ポイント近く上昇しており、簡単にあきらめず、いろいろな方法を使って問題を解こうとする姿勢が見られる。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」 (%)	県	全国	差
H21	63.5	64.8	-1.3
H22	66.3	67.1	-0.8

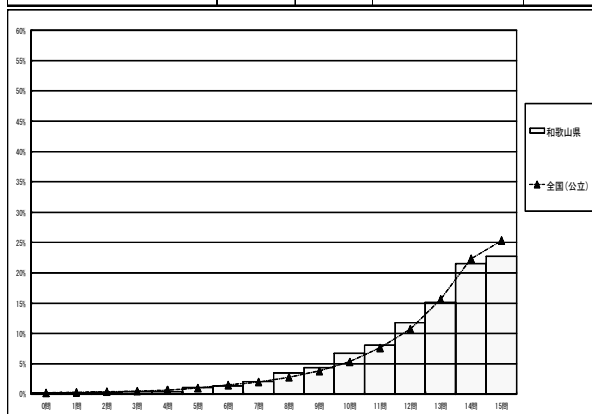
4 教科の概要

【小学校国語】

- 国語 A (知識) の平均正答率は(81.8－83.2)であり、次のような問題に課題が見られた。
- ・文学的な文章に登場する人物を相互に関係付けて読むこと [A]3 62.5%
 - ・文と文との意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書くこと [A]4 60.3%
- 国語 B (活用) の平均正答率は(75.0－77.0)であり、次のような問題に課題が見られた。
- ・目的や意図に応じて、聞き手を引き付けるように話すこと [B]3 67.7%
 - ・目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読み、理由を明確にして説明すること [B]4 62.9%

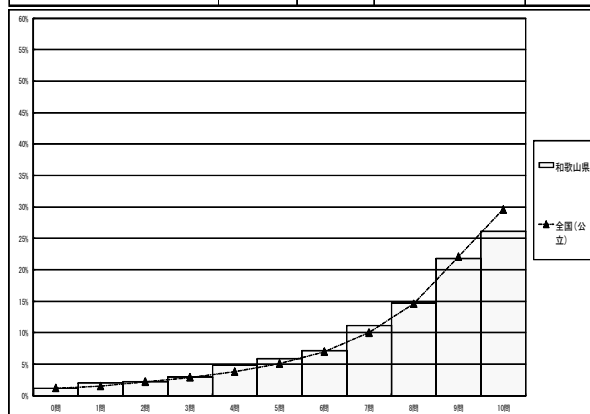
[国語 A]

	児童数	平均正答数	平均正答率の95%信頼区間 (%)	中央値
和歌山県(公立)	3,845	12.4 / 15	81.8 - 83.2	13.0
全国(公立)	264,182	12.5 / 15	83.2 - 83.5	13.0



[国語 B]

	児童数	平均正答数	平均正答率の95%信頼区間 (%)	中央値
和歌山県(公立)	3,845	7.6 / 10	75.0 - 77.0	8.0
全国(公立)	264,170	7.8 / 10	77.7 - 78.0	9.0

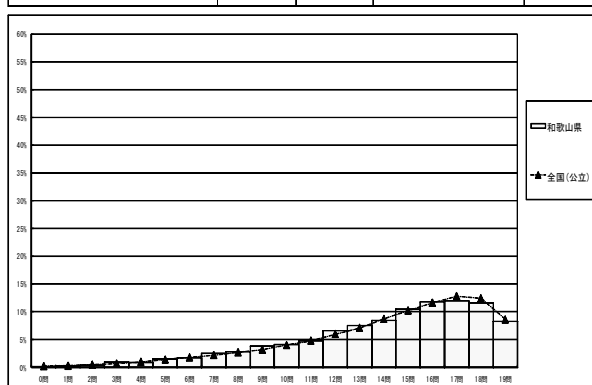


【小学校算数】

- 算数 A (知識) の平均正答率は(72.6－74.6)であり、次のような問題に課題が見られた。
- ・数量を等分したときの1つ分を分数で表すこと [A]2 (2) 34.6%
 - ・円を分割し、並び替えて作った長方形の横の長さを理解すること [A]4 (2) 54.3%
- 算数 B (活用) の平均正答率は(46.9－48.9)であり、次のような問題に課題が見られた。
- ・平面上にかかれた図を基に、どのような長方形かを考えて書くこと [B]2 (1) 27.7%
 - ・示された図や考えを基に、長さの大小を判断し、その理由を書くこと [B]6 (2) 15.0%

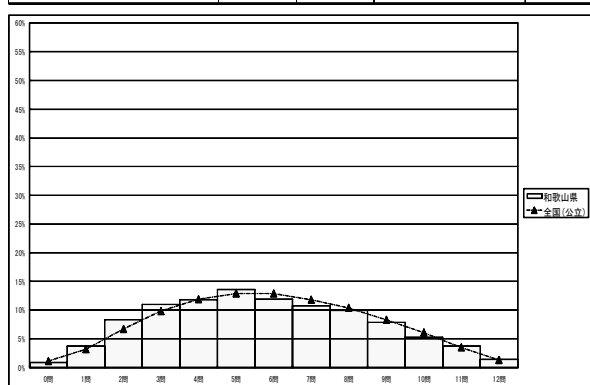
[算数 A]

	児童数	平均正答数	平均正答率の95%信頼区間 (%)	中央値
和歌山県(公立)	3,845	14.0 / 19	72.6 - 74.6	15.0
全国(公立)	264,193	14.1 / 19	74.0 - 74.4	15.0



[算数 B]

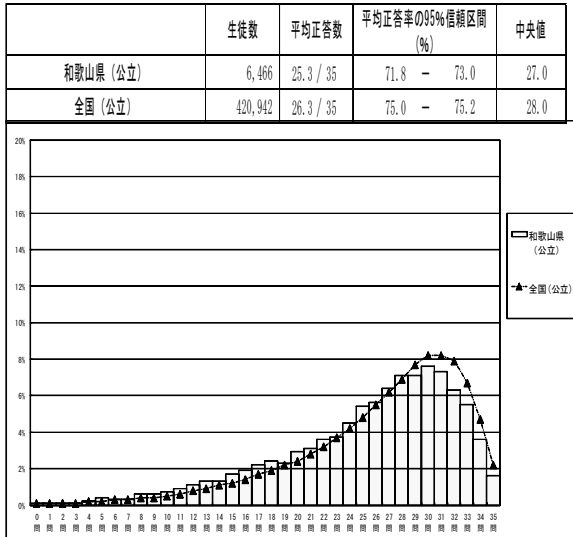
	児童数	平均正答数	平均正答率の95%信頼区間 (%)	中央値
和歌山県(公立)	3,845	5.7 / 12	46.9 - 48.9	6.0
全国(公立)	264,181	5.9 / 12	49.1 - 49.5	6.0



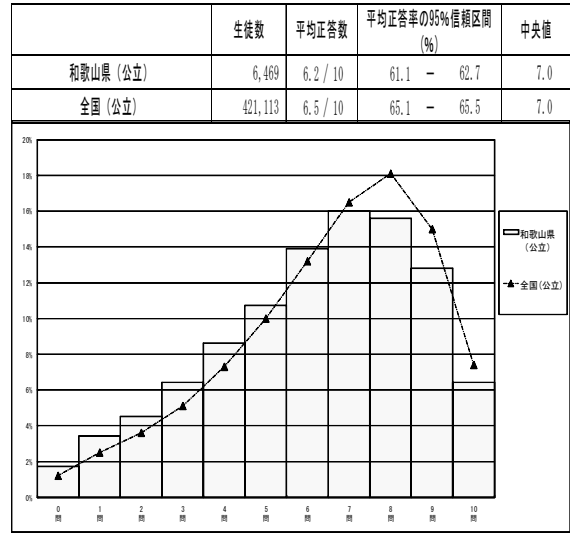
【中学校国語】

- 国語A（知識）の平均正答率は(71.8－73.0)であり、次のような問題に課題が見られた。
- ・ 分かりやすい文章にするために、二文に分けたり、主語を補ったりすること [A 4] 三 38.2%
 - ・ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと [A 10] 三 37.5%
- 国語B（活用）の平均正答率は(61.1－62.7)であり、次のような問題に課題が見られた。
- ・ 資料の提示の仕方を工夫し、その方法について具体的に説明すること。 [B 2] 三 41.3%
 - ・ 比喩的な表現で書かれた内容について理解すること [B 3] 三 33.7%

[国語 A]



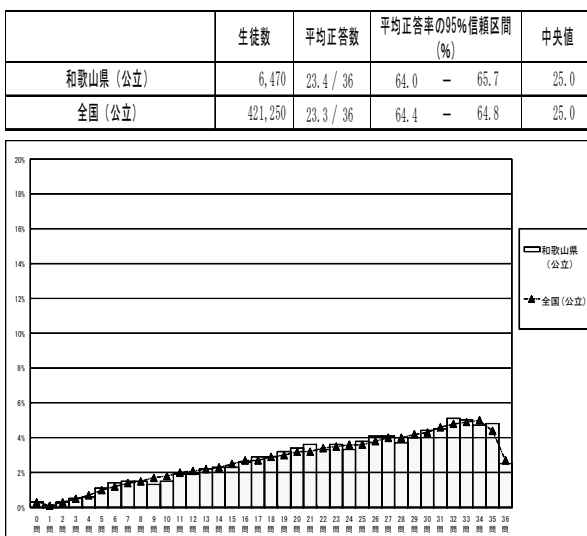
[国語 B]



【中学校数学】

- 数学A（知識）の平均正答率は(64.0－65.7)であり、次のような問題に課題が見られた。
- ・ 比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めること [A 9] (3) 40.1%
 - ・ 具体的な事象における一次関数の関係を式で表すこと [A 11] (3) 23.1%
- 数学B（活用）の平均正答率は(41.0－43.2)であり、次のような問題に課題が見られた。
- ・ 表やグラフで与えられた情報をよみ、問題解決の方法を数学的に説明すること [B 3] (2) 25.1%
 - ・ 事象を数学的に解釈し、成り立つ事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明すること [B 5] (2) 9.5%

[数学 A]



[数学 B]

